

長野県坂城町議会

2023

さかき

No. 170

令和5年10月31日

議会だより

秋の気配

(関連記事17ページ)

9月定例会

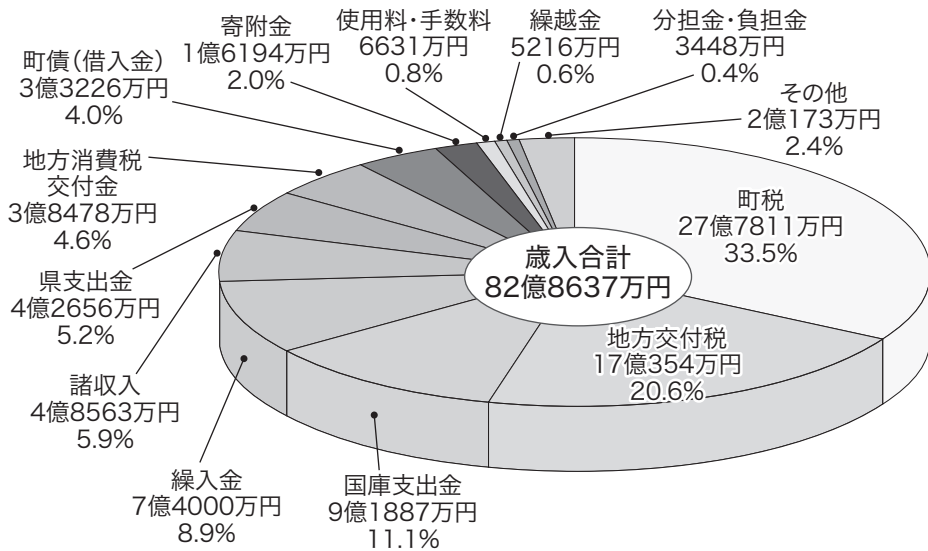
- 令和4年度決算を認定……………2ページ
- ここが聞きたい!一般質問11名 ……10ページ

湯さん館リニューアル、町体育館耐震補強・大規模改修を実施

万円を認定!

第3回定例会(9月) 決算議会

歳入 町税・地方交付税増収



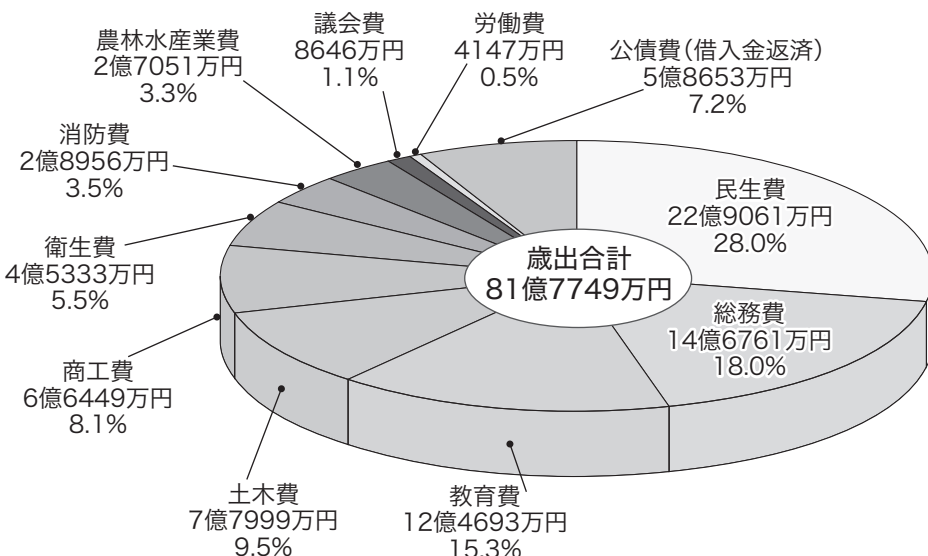
9月議会定例会は8月31日に開会され、4年度の一般会計及び各特別会計決算の認定、固定資産評価審査委員会委員、公平委員会委員などの人事案件、契約の締結、条例案、5年度一般会計及び特別会計補正予算などを原案のとおり可決した。また、一般質問には11人が登壇し、21日に閉会した。

一般会計

歳入総額	82億8637万2836円
歳出総額	81億7749万4867円
差引額*	1億887万7969円

歳入のうち、町税は法人町民税の増収等により、前年度と比較し、7・3%、約1億8800万円の増額となった。また、地方交付税は、臨時財政対策債の発行可能額が大幅に減額となったことで、普通交付税の算定の基礎となる基準財政需要額が増額となり、普通交付税として交付されたことから、13・3%、約2億円の増額となった。国庫支出金は、新型コロナウイルス感染症、物価高騰への対策費用として、地方創生臨時交付金等が交付されたが、3年度に実施した子育て世帯等臨時特別給付金給付事業費補助金の減額等により、約3億7200万円の減額となった。

歳出 新型コロナウイルス感染症・物価高騰対策



歳出は、国からの交付金を活用し、さかきのお店応援券事業、スタンプラリー事業など、事業者や町民への支援の取り組みや物価高騰等の影響を大きく受けた運送事業者や中小企業等への事業継続支援金事業などを実施した。また、ハード事業として、びんぐし湯さん館リニューアル改修事業やボルダリング設備を新設した町体育館の耐震補強・大規模改修事業、昭和橋等の橋梁修繕工事などを行った。

令和4年度一般会計決算 歳出対前年度比1.1%増びんぐし

歳出総額 81億7749

会計名	歳入	対前年度増減率	歳出	対前年度増減率
国民健康保険	13億 6676万円	△ 3.9%	13億 6527万円	△ 3.9%
工業地域開発	7億 8082万円	2253.4%	7億 8082万円	2253.4%
下水道	8億 2279万円	△ 23.8%	8億 423万円	△ 23.2%
介護保険	13億 8484万円	△ 0.8%	13億 6118万円	0.2%
後期高齢者医療	2億 4722万円	6.8%	2億 4722万円	6.8%
合計	46億 243万円	10.6%	45億 5872万円	11.4%

※差引額
各会計の差引額は、決算
剰余金として翌年度へ繰
り越すほか、一部基金に積
み立てる。

下水道事業特別会計
主に、坂城、南条、中之
条地区の整備を進め、4
年度末現在で、町内の整
備面積は595ha、整備
率は96%となった。

特別会計

歳入総額 46億 242万 8437円
歳出総額 45億 5871万 9922円
差引額[※] 4370万 8515円



ボルダリング設備（町体育館）

決算審査報告

監査委員

春日 英次
大森 茂彦

4年度一般会計、特別
会計及び財政援助団体
（一財）更埴地域勤労者
共済会の決算審査を、
7月20日から7月31日
まで実施した。財政健
全化判断比率の審査を
8月17日に行った。

審査結果

審査に付された各会
計歳入歳出決算及び附
属書類は、いずれも関

係法令の定める様式に
従って作成されてお
り、決算の計数は諸帳
簿と符合して正確であ
ることを認めた。
また、財政健全化判
断比率及び算定書類
は、いずれも関係法令
の定める様式に従って
作成されており、比率
の計数は算定書類と符
合して正確であること
を認めた。

委員会審査

一般会計

総務産業・社会文教常任委員会では、4年度一般会計決算の各項目について、9月13日、14日の2日間で、所管による関係資料をもとに慎重かつ詳細に審査を実施した。

その内容について、両委員長から審査報告があり、主な内容は以下のとおり。

総務産業常任委員会
ふるさと寄附金
実質収入額約4820万円

委員長 大日向進也

歳入

問 町税の徴収率向上に向けた対応は。

答 滞納者には、現年度課税分を中心に折衝を行っている。未納額の減少に努めている。あわせて、不納欠損処分等による滞納金の整理を行い、徴収率の向上につなげていく。

問 コミュニティ推進事業助成金の内容は。

答 一般財団法人自治総合センターが、宝くじの売り上げを財源として交付している助成金で、4年度は上五明区の長持及び神楽用備品の整備事業が対象となった。

歳出

総務課

問 職員採用試験の申込人数と採用人数は。

答 4年度の職員採用試験の申込は17名で、そのうち6名を採用した。

問 参議院議員通常選挙にかかる費用が前回と比べ増加している理由は。

答 この選挙から各投票所に受付システムを導入したことにより、その費用が増加となった。

企画政策課

問 スマートエネルギー設備設置補助金の設備ごとの交付実績は。

答 4年度は、住宅用太陽光発電システムが33件で補助額は221万6千円、家庭用リチウムイオン蓄電池システムが27件で補助額は540万円、家庭用エネルギー管理システム(HEMS)が8件で補助額は31万1千円であった。

問 びんぐし湯さん館の4年度の経営状況と入館者数は。

答 コロナ禍や燃料価格の高騰等、経営環境は厳しいが、指定管理者による経営努力や国の交付金を活用した支援などにより経営の安定を図っている。工事に伴う休館はあったが、4年度の入館者数は約16万3千人であった。

問 ふるさと寄附金の総額は。また、諸経費等を差し引いた町への収入額は。

答 4年度の寄附総額は1億2983万5千円であった。諸経費と町民の他自治体への寄附による

町税の控除額を除いた町への収入額は、4820万8213円である。

商工農林課

問 有害鳥獣の捕獲状況と今後の対策は。

答 4年度はニホンジカが69頭、イノシシ17頭、ハクビシン4頭、タヌキ11頭、キツネ6頭の合計107頭を捕獲した。

今後の対策としては、実施隊や集落捕獲隊による「捕獲対策」及び侵入防止柵の推進や農業者が行う自衛策に対する支援等

の「防除対策」、ざんさ残渣の除去や耕作放棄地の解消といった「環境整備」の3つの対策を軸に進めていく。

問 今後の坂城駅周辺中心市街地の活性化について、どのようなビジョンで進めていくのか。

答 旧宮原邸跡地や今年度解体工事を行う旧兒玉邸跡地など、鉄の展示館周辺を中心に、駅からの導線も考慮した中心市街地のまちづくりについて、地域の皆さんから意見をお聞きしながら検討していく。



解体工事中の旧兒玉邸

建設課

問 昭和橋修繕工事の完成予定は。

答 国の交付金の状況にもよるが、8年度の完成を目指している。

問 住宅リフォーム事業の補助率と補助上限額、これまでの申請件数は。

答 20万円以上の事業に対し補助率は20%で、5万円を上限に助成している。平成25年度から昨年度までに246件の申請があった。

問 しなの鉄道駅管理業務の状況は。

答 坂城駅については、町がしなの鉄道から駅管理を受託している。町ではシルバー人材センターに委託し、業務を行っている。

テクノさかき駅は4年度から完全に無人化されたため、待合室やトイレの清掃等については、町がシルバー人材センターに委託し行っている。

社会文教常任委員会

町体育館リニューアル

委員長 玉川清史

住民環境課

問 防犯灯におけるLEDの割合は。今後のLED化の計画は。

答 町の防犯灯に占めるLEDの割合は約12%である。各区の要望を踏まえ、老朽化したものや新設するものについてはLEDに更新していく。

問 環境衛生委員の人数と活動内容は。

答 各区から推薦された方と議会、区長会、商工会、女性団体連合会、消費者の会の長の方、32名に委嘱している。

活動内容は、廃棄物の適正処理や減量化・資源化への協力や地域への普及・啓発である。

問 マイナンバーカードの交付率は。また自主返納者の数は。

答 今年8月末現在で、9985名に交付し、交付率は70・1%である。また、自主返納者は1名である。

福祉健康課

問 生活困窮者等自立相談支援事業の委託先と内容は。

答 町社会福祉協議会へ委託している。生活や就労などで困っている方に対して、必要な支援や生活の立て直しのための相談や援助を行っている。4年度は891件の相談があった。

問 あんしん電話の利用状況は。また、待機者はいらぬのか。

答 4年度末現在であんしん電話は122名が利用している。新システムに切り替えた3年度以降待機者はいない。要件に該当された方から申し込みをいただくと、3週間程度で設置が可能である。

問 不妊・不育治療費助成の状況は。

答 13名に助成し、7名が妊娠につながった。

教育文化課

問 教育コーディネーターと教育心理カウンセラーの活動内容は。

答 教育コーディネーターは学校運営に関する指導や専門的な観点から学校に対する助言等を行っている。また、教育支援委員会の運営や巡回相談・教育相談を行っている。教育心理カウンセラーは個別の案件について、児童・生徒や保護者

へのカウンセリングなどを実施している。それぞれ1名ずつ配置しており、業務に明確な線引きはせず、互いに補完しながら学校支援にあたっている。

問 坂城町奨学金の交付者数は。

答 経済的に修学が困難と認められる家庭に対し、月5千円の奨学金を給付している。4年度は11名に交付した。

問 町体育館耐震補強及び大規模改修工事の内容は。

答 町体育館の長寿命化と建物の安全性の確保、利用者の利便性の向上を図るため、屋根の梁の追加などの耐震補強工事と、更衣室の設置や照明のLED化、トイレの洋式化、ボルダリング設備の新設などの大規模改修工事を行った。

問 学校給食における地産地消の状況は。

答 4年度の長野県産野菜の使用割合は39・4%で、そのうち町内産野菜の割合は58・5%である。



リニューアルした町体育館

委員会審査

特別会計

付託された4年度5特別会計について、慎重かつ詳細に審査を実施した。

その内容について、両委員長から審査報告があり、主な内容は以下のとおり。

国民健康保険

社会文教常任委員長 玉川清史

特定健診受診率 57・4%

問 国民健康保険税の減免の世帯数は。そのうち、新型コロナウイルス感染症が要因となった世帯数は。

答 国保税の減免は18世帯である。新型コロナウイルス感染症が要因となる減免はなかった。

問 特定健診の受診率と昨年度と比較した状況は。

答 4年度の暫定値では57・4%である。3年度は57・8%であったため、昨年度よりも受診率が低下した。

問 1人あたりの医療費について昨年度と比較した状況は。また、県内での順位は。

答 4年度の速報値は1人あたり41万2729円であり、県内市町村の高い方から19番目である。3年度の確定値は1人あたり40万7624円であり、

高い方から16番目であったため、昨年度と比較し、1人あたり医療費の金額は上がったが、県内での順位は下がっている。

問 保険税滞納による保険証の発行状況は。

答 滞納期間等に応じて有効期間が短い短期証が発行される。4年度末時点で1ヶ月の有効期間である短期証を17世帯に発行している。

問 高額療養費の件数、金額、最高額は。

答 4年度の件数は2156件で、金額は1億1644万8549円である。最高額は96万4928円である。

介護保険

社会文教常任委員長 玉川清史

居宅介護住宅改修費助成 25件

問 特別徴収と普通徴収の人数は。

答 特別徴収が4966人、普通徴収が513人である。

問 居宅介護福祉用具購入費の助成件数は。

答 ポータブルトイレや入浴補助用具など、貸与にそぐわない福祉用具について、購入助成を34件行った。

問 居宅介護住宅改修費の助成件数は。

答 自宅において自立した生活を続けるために、段差の解消や手すりの取り付け等にかかる費用を助成している。25件助成した。



ボランティアグループ「さかきのがやき笑顔でGO!」による介護予防体操

問 地域包括支援センターに在籍するケアマネジャーの人数は。

答 2名である。

下水道事業

総務産業常任委員長 大日向進也

下水道整備率 96%

問 下水道受益者負担金及び使用料の滞納繰越分の収入の件数は。

答 受益者負担金52件、下水道使用料88件である。

問 坂城町の下水道整備率と水洗化率は。

答 整備率は96%、水洗化率は79%である。

問 マンホールポンプ警報システムは、町内に何箇所設置されているのか。

答 地形等の関係で、汚水を自然流下できない箇所にはポンプを設置しており、そのポンプに異常があった場合の警報システムである。町内に20箇所設置している。

後期高齢者医療

社会文教常任委員長 玉川清史

1人あたりの医療費 約90万円

問 4年度における県内の1人あたりの医療費の金額と順位は。

答 1人あたりの医療費は暫定で90万40円、高い方から15番目である。

問 どのような疾病で受診することが多いか。

答 国保データベースの情報によると、骨折、脳梗

塞、認知症による受診が多い。

問 特定疾病療養受療証の発行人数と疾病の内容は。

答 4年度末現在で40人に発行しており、全て人工透析を受けている方である。

工業地域開発

総務産業常任委員長 大日向進也

南条産業団地 町内企業2社に売却

問 4年度に2社に売却したが、現状は。

答 2社とも現時点で建物は建築されていないが、3年以内に工場を建

築するという契約になっている。

現在、建築に向け準備を進めているとお聞きしている。



南条産業団地

～議会を傍聴してみませんか～

次の定例会は12月初旬
開会の予定です。

事前の申し込みは不要です。
当日議場（役場4階）へお越しください。

会議録は町のホームページから
ご覧になれます。

坂城町議会

検索



一般会計と特別会計の違いは？

一般会計とは、地方公共団体において町民のサービスの提供を始めとする行政運営の基本的な経費（福祉・教育・土木など）を計上している会計。

一方で**特別会計**は、事業目的を限定し、特定の収入をもって特定の支出に充てるため、一般会計と区別して経理する必要がある場合に設けられる会計。

令和4年度、当町では、国民健康保険、介護保険、下水道事業、後期高齢者医療、工業地域開発の5会計がある。

第3回定例会 議案審議

一般会計補正予算 (第4号)

契約の承認

◆坂城町文化センター耐震補強及び大規模改修工事請負契約

町文化センターの耐震性確保と屋根・壁及び音響性能を向上させるための天井改修、トイレ改修、空調設備の更新など、利便性の向上を図るための工事を行う。

指名競争入札を実施し、契約金額は4億7850万円、請負者は岡谷・関口建設工事共同企業体。

◆上平島温泉源泉水中ポンプ売買契約

びんぐし湯さん館などに温泉を供給している上平島温泉源泉の水中ポンプについて、予備機1基を購入する。

指名競争入札を実施し、契約金額は594万円、請負者は清水機工(株)千曲本社。

契約の変更

◆クレーン付きトラック売買変更契約

車製造業の全体的な部品不足の長期化により、車両の納入に時間を要することが見込まれることから、納入期限を令和5年11月30日から令和6年3月31日に変更する。

条例制定

◆坂城町下水道事業の設置等に関する条例

国の要請を踏まえ、6年度より、坂城町下水道事業特別会計から地方公営企業法に基づく公営企業会計へ移行する。

将来にわたって、持続可能な経営を確保するために、複式簿記による経理処理など「経営の見え化」により、経営基盤の強化を図る。

問 地方交付税が増額となった理由は。

答 普通交付税は国の統一的な項目、基準、係数等に基づいて算定された基準財政需要額と基準財政収入額との差額が、町に交付されるものである。

増額の主な要因としては、5年度、国全体の市町村分の交付額が前年度比2・3%増で交付されたこと、算定項目に公共施設の光熱費高騰への対応やマイナンバー利活用特別分が新たに算定されたことなどによる。

問 財政調整基金の残高は。

答 23億7638万5千円である。



令和5年度 一般会計補正予算 (主なもの)

◆第3号補正額(専決)	2,514万円
歳出	
○生活困窮者価格高騰特別対策事業	1,150万円
○子育て世帯生活支援特別給付金事業	400万円
○法人町民税などの税償還金・還付加算金	840万円
○南条保育園空調設備更新工事	120万円
◆第4号補正額	4,601万円
歳入	
○地方交付税	3億1,055万円
○基金繰入金	▲2億6,538万円
○町債(臨時財政対策債)	▲1,803万円
歳出	
○低所得の子育て世帯生活支援特別給付金事業	300万円
○出産・子育て応援交付金事業	300万円
○中小企業融資に係る補償料補給金	750万円
○町道及び林道の除雪に係る費用	1,100万円
○バラ公園施設整備工事	230万円
◆第5号補正額	2,794万円
歳出	
○前田川及び入田川水門の無停電電源装置設置工事	1,683万円
○子育て支援センター昇降機修繕工事	770万円
○町道0180号線横断水路新設工事	50万円
○農作物等災害見舞金	20万円

人事(敬称略)

- 人権擁護委員(任期3年)
長谷川明美(新地) 新任
- 固定資産評価審査委員会委員(任期3年)
玉木 守二(上五明) 再任
- 千曲市・坂城町等公平委員会委員(任期4年)
鈴木 恒夫(上五明) 再任
- 坂城町農業委員会委員(任期 令和6年5月17日まで)
柳澤 一男(御所沢) 新任・宮入 健誠(網掛) 新任

第3回定例会(9月)の審議結果

1 全会一致で可決された議案

(1) 専決処分

- ① 令和5年度一般会計補正予算(第3号)

(2) 人事

- ① 人権擁護委員の推薦
- ② 固定資産評価審査委員会委員の選任
- ③ 千曲市・坂城町等公平委員会委員の選任
- ④ 坂城町農業委員会委員の任命の同意(2件)

(3) 契約

- ① 令和5年度坂城町文化センター耐震補強及び大規模改修工事請負契約の締結
- ② 令和5年度上平島温泉源泉水中ポンプ売買契約の締結
- ③ 令和4年度クレーン付きトラック売買変更契約の締結

(4) 条例

- ① 坂城町下水道事業の設置等に関する条例の制定
- ② 坂城町生活環境保全条例の一部を改正する条例
- ③ 坂城町商工業振興条例の一部を改正する条例

(5) 令和4年度歳入歳出決算の認定

- ① 一般会計
- ② 工業地域開発事業特別会計
- ③ 下水道事業特別会計
- ④ 介護保険特別会計
- ⑤ 後期高齢者医療特別会計

(6) 令和5年度予算

- ① 一般会計補正予算(第4号)
- ② 一般会計補正予算(第5号)
- ③ 国民健康保険特別会計補正予算(第1号)
- ④ 下水道事業特別会計補正予算(第1号)
- ⑤ 下水道事業特別会計補正予算(第2号)
- ⑥ 介護保険特別会計補正予算(第1号)
- ⑦ 後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)



2 賛否が分かれた議案

(○は賛成、×は反対)

(議案名)		結果	(議員氏名)														
			塚田舞	松本みゆき	水出康成	宮入健誠	中村忠靖	星哲夫	玉川清史	山城峻一	柘津明子	大日向進也	朝倉国勝	大森茂彦	中嶋登	滝沢幸映	
令和4年度歳入歳出決算の認定	国民健康保険特別会計	可決	○	○	○ 賛成 討論	○	○	○	×	○	○	○	○	×	○	議	議
請願	「さらなる少人数学級推進と教育予算の増額」・「義務教育費国庫負担制度の堅持・拡充」を求める請願書	不採択	×	○	×	×	×	○	○	○	×	×	×	○	長	長	職
陳情	「健康保険証」の存続に関する意見書の提出を求める陳情書	不採択	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	○	職		職

3 全会一致で否決された議案……なし

4 請願・陳情審査結果

	件名	提出者	付託常任委員会及び委員会審査結果	本会議における議決結果
請願	「さらなる少人数学級推進と教育予算の増額」・「義務教育費国庫負担制度の堅持・拡充」を求める請願書	長野県教職員組合更埴支部 坂城町単位組合 執行委員長 太田 文昭 紹介議員 大森 茂彦	社会文教 不採択	不採択
請願	「へき地教育振興法に鑑み、へき地手当等支給率を近隣県並みの水準に戻すこと」を長野県知事に求める請願書	長野県教職員組合更埴支部 坂城町単位組合 執行委員長 太田 文昭 紹介議員 大森 茂彦	社会文教 継続審査	
陳情	「健康保険証」の存続に関する意見書の提出を求める陳情書	長野県保険医協会 会長 宮沢 裕夫	社会文教 不採択	不採択

ここが聞きたい！ 一般質問

(一般質問の文章は、質問者の責任で作成しています)

有機農業

有機農業の推進を

推進体制づくりを進める

問 農林水産省は、生産から消費まで一貫して取り組む「オーガニックビレッジ」を推進する自治体を支援している。現在、84自治体を取り組みを始めており、町も有機栽培農業の推進を。商工農林課長 有機栽培は、国が定める「日本農業規格（JAS）」で認めら



大森 茂彦 議員

れた農業以外は使用できない。また、市場に出すには登録認証機関から、有機JAS認証事業所としての認定が必要。農林水産省では、先進的なモデル地区を順次創出し、産地づくりを支援するとしている。県でも「第4期有機農業推進計画」を策定し、農業を取り巻く情勢の変化に対応しつつ推進している。有機農業は、栽培管理に労力とコストがかかることに加え、栽培技術が確立しておらず、農家の勘と経験に頼る部分が大

きいため、町では普及が進んでいない。今後、県やJAなどと連携して有機農業の推進体制づくりを進めていく。**問** 有機農業者がゼロの自治体でも、首長の決断で有機農業が始まっている。町長も有機農業への決断を。町長 有機農業は、非常に重要なテーマと見ている。国・県の状況を見て、検討していく。

オーガニックビレッジ



出典：農林水産省ホームページ

(https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/yuuki/organic_village.html)

質問項目

大森 茂彦 議員 10ページ

- ① よりよい教育行政を目指して
- ② 町の農業はどうなる
- ③ 上水道の広域化について

宮入 健誠 議員 11ページ

- ① 坂城インター線先線延伸事業について
- ② 防災への取り組みについて
- ③ 町単補助事業について

中村 忠靖 議員 11ページ

- ① 防災・減災対策について
- ② 訪問理美容事業について

柘津 明子 議員 12ページ

- ① 災害対策について
- ② 生きる支援について

松本 みゆき 議員 12ページ

- ① 町内企業への展示会出展支援について
- ② 住民と連携し地域を守るために

塚田 舞 議員 13ページ

- ① 学校給食について
- ② 認知症について

玉川 清史 議員 13ページ

- ① 町民の健康と生活を守るために
- ② 非核平和宣言の町として
- ③ 災害対策について

星 哲夫 議員 14ページ

- ① 災害時の中核避難所について

大日向 進也 議員 14ページ

- ① 学校教育について
- ② 地域共生社会の実現について

水出 康成 議員 15ページ

- ① 防災組織について
- ② 町道の除草について
- ③ 移住定住施策について

山城 峻一 議員 15ページ

- ① 町の魅力発信と移住定住について
- ② 長野大学との連携について

インター線

現工事区間の開通は 今年度末の供用開始を目指す



宮入 健誠 議員

問 平成27年度に事業化されたインター線先線の現工事区間(中之条工区)の開通見通しは。

町長 千曲建設事務所が事業主体である主要地方道(県道)坂城インター線先線の国道18号からテクノさかき工業団地までの約400メートルの区間については、現在舗装等が行われており、今年度末の供用開始を目指している。

問 更なる延伸計画の概要は。

町長 国道18号の慢性的な交通渋滞の解消や、



工事が進むインター線 先線

災害・緊急時の輸送ルートの確保、工業団地へのアクセスルートの構築などを目的とし、現在事業中の中之条工区の終点から千曲川を渡り、計画中の国道18号バイパス交差

点までの約900メートルの区間を延伸する予定である。県からは、車道2車線と両側に自転車通行帯、車道を含め全幅14メートルを予定しているなどと、基本計画案の概要について説明があった。

問 地区説明会の開催見通しは。

町長 事業主体である千曲建設事務所において、この秋の開催に向けて、日程調整を行っている。



中村 忠靖 議員

防災・減災

気象のプロの活用は 活用を検討

問 災害時における「タイムライン」(防災行動計画)策定の考えは。

町長 「千曲川・犀川流域タイムライン」の運用によって、より正確で、早めの判断と防災行動ができるものと考えている。

問 気象のプロの視点から自治体に助言を行う「気象防災アドバイザー」の活用は。

町長 地域住民の防災意識の向上や避難行動計画の作成支援などの場面で活用を検討する。

問 「個別避難計画」作成の状況は。

町長 災害時において実際に避難支援を担っていた各各地区の自主防災会を中心に、町も協力しながら作成していきたいと考えており、先日、各区長の方々に、防災説明

あなたのまちに 気象防災アドバイザーを

こんな お悩み ありませんか？

住民への周知啓発をもっと充実させたい

避難情報の発令を適切にできるか不安

地方公共団体

地域に特化した気象解説を聞きたい

そのお悩み
気象防災アドバイザー
にお任せください

気象防災アドバイザーは、国土交通大臣から委嘱を受けた、地域に精通した気象の専門家で、気象台の手の届かないところまで地方公共団体をバックアップします。

出典：気象庁ホームページ
(<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/intro/gyomu/wxad/index.html>)

問 費用助成の見直しは。

町長 福祉健康課長 在宅の寝たきり高齢者及び重度障がい者の方を対象に心身のリフレッシュ等、福祉の向上を図ることを目的に実施している。現在のところ、見直すことは考えていないが、これまでの利用実績を踏まえる中で、高齢者の方やご家族の方への周知に、より一層努める。

訪問理美容事業について
会で説明した。

生きる支援

子どもの自殺防止策は

SOSの出し方を教育



赤津 明子 議員

問 子どもたちに向けた自殺防止のための啓発・

指導として、「SOSの出し方教育」をどのように進めているか。

教育文化課長 小学校では、学年ごとに外部講師による講演や保健の授業において、命の大切さや、命の守り方、困った時の助け

の求め方、不安やストレスを感じた場合の対応について学習している。中学校においては、3学年を対象に、一人で悩まず相談することや、悩んでいる人の話を聞いてあげることなどの学習を、県教育委員会の推奨教材を活用して行っている。

問 子どもが相談しやすい環境づくりへの町の考えは。

教育文化課長 小中学校では、毎月、教育・心理カウンセラーが巡回し、児童生徒が、カウンセリングを受けられる機会を設けている。また、学校職員を対象とした講演会や研修会を実施しているほか、PTAにおいても講演会や保健だよりを通じて保護者への啓発にも取り組んでいる。さらに、教育を始め、保健、福祉にかかわる機関との情報共有を行い、関係機関が連携し、児童生徒が切れ目なく必要な支援を受けられる体制づくりを進めている。

誰か話したい
今、話したい
誰かがいる

学校でのいじめに悩んだり、心配な友達がいいたら、いつでも話を聞こう

通話料無料になりました
24時間子供SOSダイヤル ☎0120-0-78310
各教育委員会等によって運営されている、全国共通のダイヤルです。

以下の相談ダイヤルもご利用いただけます。状況に応じてご利用ください。

児童虐待から守るダイヤル ☎189番 (児童相談所全国共通ダイヤル)	子どもの人権110番 ☎0120-007-110 (児童相談所、児童福祉施設、児童養育施設、児童相談所、児童相談所)	長野県教育委員会による青少年相談窓口 (心のサポートから子どもの安全まで)
---------------------------------------	---	--

内閣府 警察庁 法務省 文部科学省 厚生労働省

出典：文部科学省ホームページ

(https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1358681.htm)

出展支援の現状は

技術力をPRしている

企業展示会



松本 みゆき 議員

問 坂城町は工業が盛んなものづくりの町で、展示会への出展は、販路拡大にとっても重要だが、展示会参加の現状と成果は。

町長 6月に東京ビッグサイトにて開催された「機械要素技術展」の出展

支援を行った。今回の出展企業6社合計で404件の商談があり、うち継続中のものが78件ある。

問 町内企業のPRにもつながる、今後の出展支援についての考えは。

町長 今後も、町内企業の受注機会の増加や販路拡大を支援するため、坂城町出品者協会を通して出展支援を継続し、町の工業振興を図っていく。

水害対策

問 8月19日に立町区などで発生した水害を教訓に、水門に蓄電池を付けるなど、対策の考えはあるか。

商工農林課長 被害があった前田川の水門に関して、対策方法を検討している。その他、河川及び用水路についても、前田川を含む11箇所5分ごとの水位情報が把握できる水位監視装置を今年度、導入していきたい。



機械要素技術展(東京ビッグサイト)

認知症

温かい地域社会の形成を

実情に即した取組を推進



塚田 舞 議員

問 認知症は健康と生活に影響を及ぼす重要な課題である。急速に高齢化が進む日本では、認知症と診断された方の増加により様々な問題に直面している。認知症に対する町の取り組みは。

福祉健康課長 認知症の進行とともに変化する状態と支援について記載した「高齢者福祉・介護保険サービス」の冊子を全戸に配布している。地域包括支援センターでは進行に合わせたサポート活動を行っている。また、商工会主催の講座も実施し、認知症への正しい知識の普及に努めている。認知症患者や家族に対する支援においては、ご家族や地域との連携体制を整え、状況に合わせて公的支援に繋げている。また、要介護認定や介護予防・日常生活支援総合



坂 城 町

サービス、医療受診への支援を行い、相談内容や状況に応じて専門機関との連携に努めている。予防においては、毎月1回の講座やストレッチ・ヨガ教室などを開催し、体力の向上に取り組んでいる。

問 共生社会に向けた町の今後の対応と考えは。
福祉健康課長 認知症の方の人権や尊厳を尊重し、地域の実情に応じた事業の考案と実施に向け、誰もが生きがいや希望を持って暮らせるよう取り組んでいく。



玉川 清史 議員

問 戦没者追悼式の参列者を一般に広げる考えは。

福祉健康課長 平成16年度以降、町戦没者追悼式は、坂城町遺族会のご協力を得て、町と社協が連携して開催してきた。昨年度をもって、町遺族会及び坂城、南条、中之条、

村上の各地区の遺族会が解散されたが、町では、この追悼式を継続して実施していく予定である。開催にあたっては、これまで遺族会に所属されていた方に個別に案内するとともに、広く一般の方にも広報等で周知を図り、多くの方に参列いただ

追悼式

もっと身近にできないか

参加者の拡大も検討する

る形で実施していきたい。

問 慰霊碑などに彫られている文章の保存は。

教育文化課長 文化財保護審議会や郷土史研究の方々に依頼し、石碑などの碑文を文化財記録として『坂城のいしぶみ』にまとめており、町立図書館で見ることができ

問 非核平和宣言文の周知の推進や、広島・長崎平和式典への町民派遣などの考えは。

総務課長 宣言文はホームページに掲載しているが、今後も機会を捉えて周知をする。派遣事業は平和活動の一つと捉えるが、町内での平和活動を継続することで、非核平和の取組みを進めていく。



中核避難所

プライバシーを守るために

簡易間仕切りなどを準備



簡易間仕切り



星 哲夫 議員

問 避難所運営の経験を踏まえた中核避難所の対策と、プライバシー保護への対応は。

町長 令和元年10月に発生した東日本台風の経験を元に、中核避難所の対応として、快適に過ごしてもらえるよう、停電時の電力供給を実現するた

め、自立分散型の蓄電設備や再生可能エネルギー設備の導入を順次進めている。導入済の村上小、坂城小に加え、今年度中には、南条小及び文化センターに設置完了予定。

また、大雨により各避難所に必要な物資運搬が困難であったため、各小学校に災害用簡易備蓄庫を新設し、各施設に必要な物資を保管することとした。これにより迅速に避難所を開設し、運営

することができるようになった。プライバシー保護対策としては、ワンタッチパーテーションや段ボールを使った簡易間仕切りを、その他の物資とともに、小学校等の備蓄庫に保管している。

問 中核避難所である文化センター、小中学校体育館などのトイレの洋式化について、今後の考えは。

教育文化課長 誰もが安心して使えるよう洋式化・多目的化を順次進めていく考えである。

地域包括

相談への対応は

様々な機関と連携



大日向 進也 議員

が減ったことから体力、気力の低下等に繋がりが、自身の健康状態に不安を感じた方が増えたためとみられる。

また、高齢者本人からは、日常での生活動作が困難になってくる不安に

ついでに相談が多く、家族や親族等からは、身体機能低下予防や認知面に関する相談が寄せられている。

問 寄せられた相談に対し、どのような機関と連携を行っているか。

福祉健康課長 内容やケースに応じ様々であるが、主に社会福祉協議会、介護サービス事業所、医療機関、保健福祉事務所等の各機関と連携している。

問 地域包括支援センターは、介護予防に必要な援助や高齢者の総合相談を行い、保健医療の向上及び福祉の増進を包括的に支援することを目的に市町村が設置している機関である。

過去3年の包括支援センターへの相談件数と、寄せられる相談内容は。

福祉健康課長 相談件数は、2年度は2216件、3年度は3392件、4年度は2937件となっている。3年度が突出して多い要因は、コロナ禍により外出の機会



不安を感じたらいつでも相談を

防災組織

婦人消防隊の見直しを

あり方を研究する



水出 康成 議員

問 婦人消防隊は、災害時の後方支援や、家庭での予防意識を啓蒙する重要な役割を担っている

が、高齢化や共働きなどによる担い手不足も課題である。また、「婦人」という名称について、現世代では違和感がある。自主防災会の強化が望まれる昨今、婦人消防隊は自主防災会へ機能統合し、婦人消防隊の解散の検討が必要と考えるが、町の考えは。

住民環境課長 婦人消防隊は地域での予防消防や、被災者へのより添いなど大変重要な役割を担っている。婦人消防隊のあり方に関して、名称や組織について研究していく。

移住定住

問 人口減少抑制策として、移住定住施策は重要である。移住を検討するうえで、親としても、子供たちの様子は大いに気になる。移住体験ハウス利用案内を通じて働く・暮らすに「学ぶ」を加え、宣伝することは効果的と考える。体験ハウスの利用促進に向けた考えは。

町長 移住定住を促進して新たな人の流れを作るため、まずは体験ハウスを利用し、町の様子を知ってもらおうよう、情報発信やPRに加え、様々な体験機会の提供に努める。

専門の部署などの設置を

役場全体で対応していく

移住定住

問 町の魅力を様々な方法で発信し、移住定住へとつなげる取り組みが必要である。過去3年間の移住相談件数は。

企画政策課長 令和2年度が4件、3年度が19件、4年度が21件である。
問 坂城町をさらに知ってもらおうための取り組みは。

企画政策課長 町のホームページやSNSを通じて情報発信のほか、民間が運営する複数の移住紹介サイトへの記事掲載



山城 峻一 議員

や、ふるさと納税事業を通じての情報発信など、より多くの方に町の情報が伝わるよう努めている。県内外でのイベントの取り組みとしては、銀座NAGANOやサービスエリア、駅などを活用し、特産品のPRイベントや

産業展などへ出展している。また、長野地域が連携し、圏域の資源を活かした移住体験ツアーや共同での移住セミナーの開催など、幅広い魅力発信も行っている。

問 移住定住をより強く進めていくうえで、専門部署、または専門の担当者配置する考えは。
企画政策課長 役場内全課を移住・定住相談窓口とし、今後も役場全体での対応を基本としていく。



坂城町総合防災訓練



移住定住の相談はどの課でも受け付けています

公共施設再活用

総務産業常任委員会



いいづなコネクト EAST

総務産業常任委員会は8月8日（火）に、飯網町のいいづなコネクトWEST及びEASTの視察を行った。

飯網町は、平成30年に町内4小学校を統合し、2校にしたことにより、閉校となった小学校を再活用している。

WESTはサッカーグラウンドや食堂、コインランドリーなどがあり、宿泊することも可能となっている。平日にも関わらず老若男女が集い賑わっていた。

一方、EASTはリングを活用したシールド工場や喫茶、また地域内の企業のサテライトオフィスが入っている。WEB会議としても使えるミーティングルームやワーキングルームなどがあり、ゆったりとした雰囲気の中で仕事ができる環境が整えられていたのが、とても印象的だった。

施設の整備にあたり、閉校となった校舎の利活用をどのようにしたらよいかを地域住民と共働で検討するプロジェクトチームを設置し、町に提言したとのこと。

全国各地で人口減少の影響により、公共施設の統廃合が行われてきている。

その際、施設の後利用をどうするかというのは、とても重要であると同時に住民にとって繊細な話でもある。だからこそ、様々な立場の人が考え、議論する、「場作り」が最も重要であると感じた。

（山城 峻一）

環境関連施設

社会文教常任委員会



ちくま環境エネルギーセンター

社会文教常任委員会は8月2日（水）に、地域の環境施設である「葛尾組合」「エコパーク須坂」「ちくま環境エネルギーセンター」の3施設を視察した。

葛尾組合では従来施設のほか、今年6月に完成した合葬式墓地を見学。個別埋蔵200体（骨壺）と共同埋蔵（焼骨状態で4000体）の受け入れができ、お墓の承継管理が困難な方や、宗教、宗派を問わず利用できる。また、廃炉となった焼却施設は6年度に解体し、後利用として不燃ごみ、資源ごみのストックヤード

機能を集約した「葛尾組合マテリアルリサイクル推進施設」として整備を計画している。

エコパーク須坂は、有害物が外に漏れださない最新の管理システムにより、ごみ焼却施設から出る溶融スラグ・飛灰処理物・溶融不適物を埋め立てる最終処分場である。埋立容量8万5千³m、使用期間は30年間の予定で最初の15年間は埋め立て、後半の15年間は有害物の数値を監視し、問題がなければ埋立地は地域のために活用する。

ちくま環境エネルギーセンターは、2炉の焼却炉を使い、1日100tのごみを焼却できる。焼却エネルギーを利用した発電、太陽光発電、防災拠点として水害以外の避難所、環境学習の場の提供や焼却施設から発生する熱エネルギーを有効活用した入浴施設も隣接して設置されており、地元貢献が図られている。

今回見学した3施設とも、環境にも地域にも配慮されたクリーンな施設であった。（水出 康成）

スポーツの秋



坂城保育園運動会（9月16日）



レクリエーション・軽スポーツ交流会
（10月1日）



坂城幼稚園運動会（9月16日）

議 会 日 誌 (主なもの)

- 7月**
- 3日 六ヶ郷用水組合議会臨時会
 - 3・6・10・14日 議会報編集委員会
 - 7日 議会改革等特別委員会
 - 10日 葛尾組合議会臨時会
 - 11日 新国道上田篠ノ井間建設促進期成同盟会総会
 - 11～12日 上田地域広域連合議会行政視察
 - 14日 町村議会議員研修会
 - 18日 県道上室賀坂城停車場線改良促進期成同盟会総会
 - 19日 議会全員協議会
 - 20・24・25・26・27・31日 決算審査
 - 25日 千曲坂城消防組合議会臨時会
 - 26日 上田地域広域連合管内施設視察
 - 27日 町例月現金出納検査
千曲衛生施設組合議会臨時会
 - 28日 議会運営委員会

- 8月**
- 2日 社会文教常任委員会閉会中の調査
 - 4日 新国道上田篠ノ井間建設促進期成同盟会要望活動
 - 8日 総務産業常任委員会閉会中の調査
 - 9日 長野県保険医協会陳情
 - 21日 議会全員協議会
県教職員組合更埴支部坂城町単位組合請願
 - 23日 議会運営委員会
 - 24日 町商工業振興審議会
 - 25日 町例月現金出納検査
 - 28日 町環境衛生委員会
 - 29日 決算審査監査報告受領
 - 31日 議会報編集委員会
 - 31日～9月21日 9月議会定例会
- 9月**
- 19・25日 議会報編集委員会
 - 21日 議会運営委員会/議会全員協議会
 - 26日 町例月現金出納検査/全国町村議会広報研修会

表紙



今回の表紙の写真は、10月6日に村上側から大望橋を撮影したものです。厳しい暑さが続いた長い夏が終わり、10月に入り一気に秋を感じるようになりました。大望橋は坂城町の東西を繋ぐ橋の1つ。これからも町民同士がつながり、助け合いながらさらに素敵な町を作っていけたらという思いをこめて選びました。
(写真：中嶋 登、文：山城峻一)

わがまちのアイドル 第1回

＝ 坂城の子は坂城で育てる ＝

この企画では、坂城町のお子さんを紹介していきます。



～名前の由来は～

パパが「湊斗(みなと)」という響きがいいと、名付けてくれました。みんなから名前をいっぱい呼んでほしいな。



小林 ^{みなと}湊斗くん(8か月：日名沢、写真：左)
いつもお姉ちゃんのひよりちゃんと一緒に♡

～好きな離乳食は～

この前食べたマダイがおいしくて、離乳食が大好きになりました。これからおいしい食べ物をたくさん食べたいな。

～お気に入りの散歩コースは～

ママに抱っこしてもらって行く、坂城神社コースが大好き！
これから坂城の街中を探索するぞ!!

～ママからの一言～

誰にでもニコニコ笑顔の湊斗くん。

お姉ちゃんが生まれた時は、コロナ禍で、健診のときも子ども同士をなるべく離していたけど、今はママたちとの会話も楽しめて、子ども同士も仲良くなれる環境になってきて良かったです。

お母さんは、ひよりちゃんと湊斗くんと一緒にいられて、とっても幸せです。湊斗くんには、優しい子に育ててほしいと思っています。



平和

前回、この議会だよりの編集後記を書いたのはちょうど一年前。一年経ち、新型コロナウイルス感染症の法律上の位置付けが変わり、私たちの生活は流行前に戻りつつある。しかしながら、一年前に始まったロシアによるウクライナ侵攻は、依然として終わりが見えない。これからの世の中がどうなっていくのか本当に見えにくい。日本国内では、少子高齢化、インフラ設備の老朽化、長時間労働など。一方で、世界に目を向けると、貧困、食糧、教育などの格差拡大、異常気象の頻発化など…課題は山積している。人と人が争っている場合ではないはずである。今しなければならぬことは、一人ひとりが知恵を出しあい、協力しあうことではないだろうか。(山城 峻二)

発行責任者 議長
議会報編集委員会

委員長 滝沢 幸映
副委員長 中嶋 登
委員 中嶋 峻一
委員 山城 忠靖
委員 中村 忠靖
委員 松本 みゆき
委員 塚田 舞